

IR ニュース

2025 年 3 月 <第 13 号>



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

1 はじめに

IR ニュースは、本学における IR(Institutional Research)の現状や動向を定期的に発信し、IR への理解と関心を高めることなどを目的として発行しています。2018 年の創刊号から数えて第 13 号となります。今回は 2024 年度の IR 室の活動を中心に報告します。過去の IR ニュースは次の URL に掲載されています。

<https://www.fukuyama-u.ac.jp/ir-room/>

IR 室の業務は、「福山大学 IR 室規則」に福山大学の様々なデータ及び情報を収集して管理・分析等を行い、本学の運営とブランディングに係る意思決定や改善を支援することと定められています。

収集に関して、データ等を保管・管理するシステムとして「キャビネット Karin」が整備されていますが、現在のシステムの将来の継続性を考慮して 2024 年度末にシステム停止することとなりました。代替の保管・管理システムとして、IR 室では、教育や業務で利用している Microsoft365 の SharePoint と、学内 LAN 上に構築された NAS を代替システムとして使用することとしました。

分析に関しては、関係する委員会・センター等と連携して分析を進め、連携先と分析結果を共有し、点検・改善に有効に活用されるように努めています。その活動及びその成果は学内外へ発信しています。2024 年度の大学機関別認証評価の受審に際して、IR 室も学内での活動とその機能性等が点検評価されました。この件については、福山大学全学自己点検評価委員長にご寄稿いただいた記事を掲載しています。

目次

1 はじめに

2 活動報告

- ・f-GPA(functional GPA)の利用にむけて
- ・入学者数の動向に関するまとめ
- ・入試方式（数学必須／国語必須）と学修成果
- ・成績データ等と資格試験可否の関係
- ・入試と学修成果に関する分析
- ・IRに関する室の学内外の研修・会議について

3. 大学機関別認証評価の受審と IR 室

4. 令和 6 (2024)年度の振り返り

2 活動報告

令和 6(2024)年度の IR 室で実施した分析に関する活動を以下にまとめています。

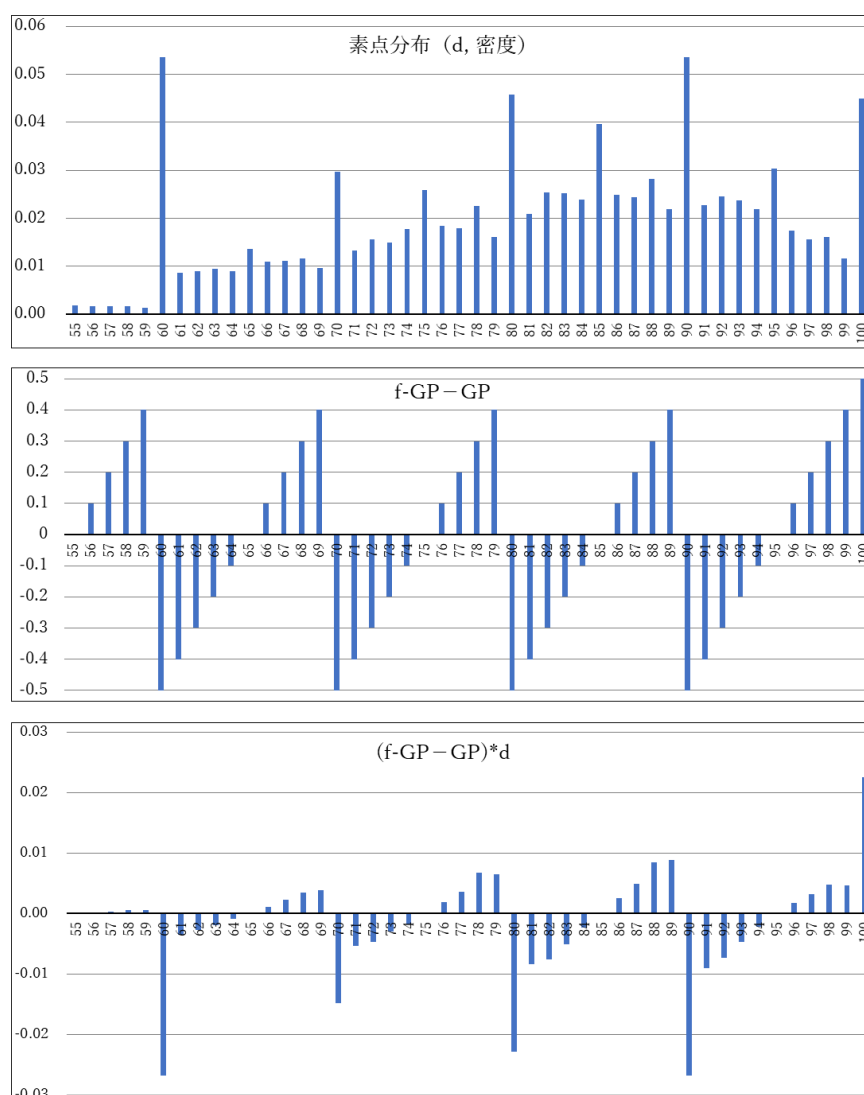
・ f-GPA の利用に向けて

f-GPA の利用に向けて本学では令和 7 年度入学生より functional GPA (f-GPA)が導入されます。この f-GPA とは、各科目の成績評価における Grade Point (GP)を

$$f-GP = \frac{\text{成績素点} - 55}{10}$$

と計算するもので、従来の GPA と比較して、GP が成績素点と 1 対 1 対応するという特徴を持ちます。

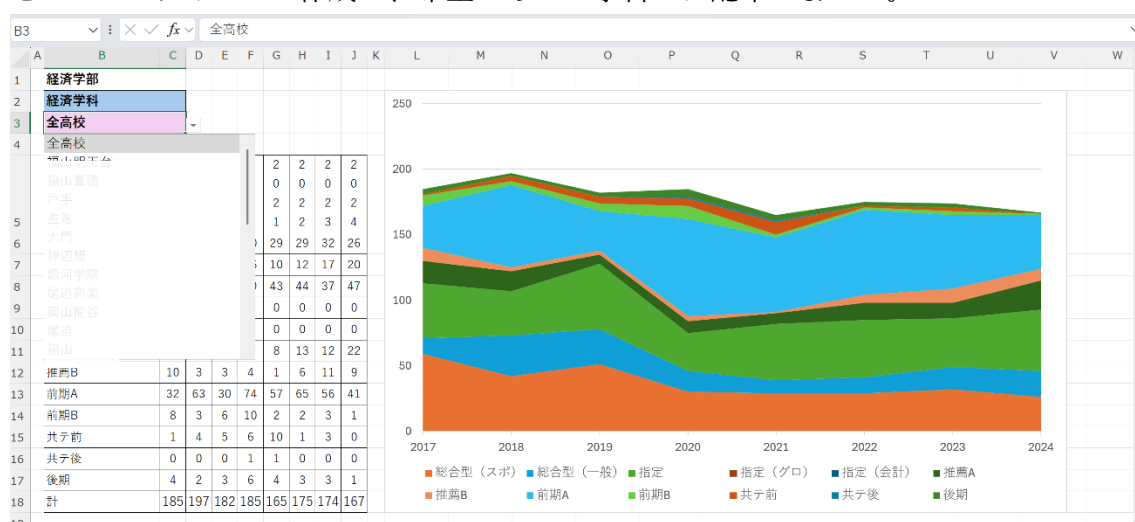
2022 年度と 2023 年度の成績データを用いて f-GPA を計算し、従来型 GPA と値を比較したところ、学期／年間／通算で多少の違いは生じるものの、平均的に f-GPA は従来型 GPA より 0.06~0.08 ほど低い値となることが判明しました。また、この乖離をもたらす主たる要因は、下 1 桁 0 となる素点がその他の素点と比べて高い割合で出現するという素点分布の歪みであることが分かりました。



f-GPA 導入に伴い、今後、これまで GPA や平均点を基準にされてきた学内の要件は全て f-GPA 値基準に統一される予定ですが、教務委員会や学長室会議での検討の結果、これら要件には大幅な修正は必要ないことが見込まれております。

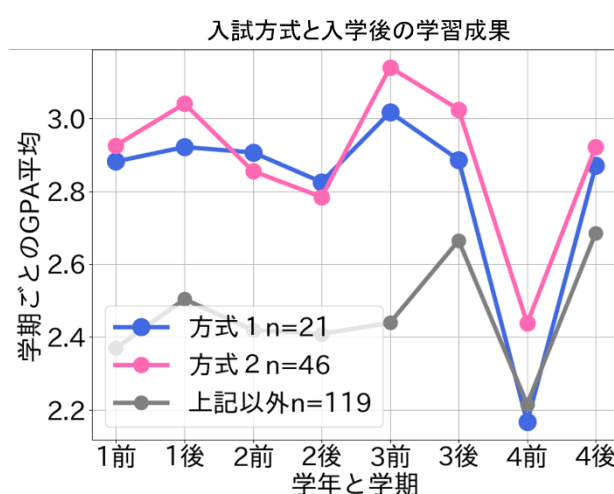
・入学者数の動向に関するまとめ

R5 年度、IR 室では入試データの一部を用いて、入試成績と入学後の学習成績の関係について解析してきました。R6 年度では、この分析の継続として学科ごとの分析を目標とし、まずは入学者数が最大である経済学科のデータを分析したところ、過去数年で入学者数が多かった上位 10 校の入学者数の変動が非常に大きいことが判明しました。この結果を受け、各学科の入学者数上位校の動向を可視化できるよう、各学科における高校別・入試別の入学者数推移を瞬時にグラフ化するプログラムを Excel ファイルにて作成し、希望があった学科には配布しました。



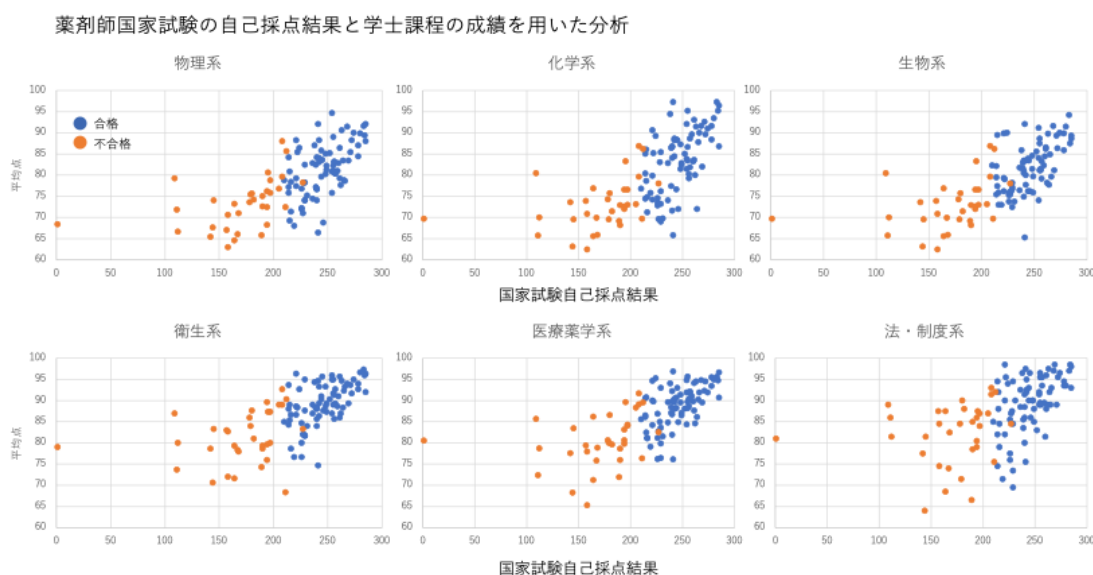
・入試方式（数学必須／国語必須）と学修成果

入試方式 1 および 2 で入学した学生について、入学後の成績および資格の合格率について解析を行いました。その結果、両方式で入学した学生は共に、入学してから卒業するまで高い学習成果を挙げ続けており、資格試験等の合格率も高いことが明らかになりました。これにより、これらの入試方式が適切に機能していることが確認されました。この分析結果は学長室会議で報告されました。以下に、その結果の一部を示します。このように大学入試の成果を分析することで、入試改善のヒントを探ることを試んでいます。



・成績データ等と資格試験合否の関係

薬剤師国家試験の合否結果と学士課程の成績および入試データとの関連について、2018 年度入学薬学生を対象に解析しました。昨年度行った 2017 年度入学薬学生の解析と比較したところ、傾向に大きな変化がないため、今後も継続的に解析を行っていくことで、入試や学生課程の改善・向上につながる可能性が考えられました。下に学士課程の成績と国家試験の自己採点を用いた解析の結果の一部を示しています。



・2023 年度に行った入試区分・成績と学修成果に関する分析

学生の入学試験結果と入学後の学修成果の関連性を把握し、教育の質の向上を図ることと入試が適切に機能していることの確認を目的として、IR 活動の一環で入試データと学修成果を用いた分析を行っています。入試データ（区分、総点等）と入学後の学修成果(成績等)を用いて関係分析を 2023 年度に行い、結果を学長室へ報告しました（IR ニュース 12 号に掲載）。新たに得られたデータを加え、前年度に得られた傾向に大きな変化は見られませんでした。今後も、データ収集を継続し、多角的な視点から分析を進めていく予定です。

・IR に関する室の学内外の研修・会議について

令和 6(2024)年度も IR に関する研修・会議が行われ IR 室メンバーが参加しました。

令和 6(2024)年 9 月 11 日(水)に福山大学と福山平成大学の IR に関連する部署が合同で研修会を開催しました。オンライン形式で実施し、両大学の 14 名が参加しました。研修会では、集積データ活用例の紹介等の情報交換を行い IR の諸活動について理解を深めました。

学外主催の研修としては、9 月 6 日(金)に西南学院大学において、大学評価・IR 担当者集会 2024

が開催され、記谷講師が参加しました。複数のセッションが開設されており、IR 実務担当者向けの「評価・IR 担当者のための「ロジックモデル・評価指標」策定演習」セッションに参加しました。「ロジックモデル」の手法を用いて、評価指標と評価基準の策定を目指す内容でした。単純な導入には困難な面がありますが有用な技法と感じました。

また 10 月 5 日（土）に教育ネットワーク中国主催で研究会(IR 事例報告)がオンライン形式で開催され、田中室長が参加しました。広島地区の 4 大学から IR 担当の教職員が休学・退学、時間割作成をテーマに IR 活用事例の報告が行われました。

今年度は IR 協議委員会第 1 回が 9 月 2 日よりメール会議形式で開催されました。審議事項は福山大学・福山平成大学合同 IR 研修会の開催で異論なく承認されました。報告事項はデータキャビネット Karin の現行システム終了に伴う移行についてでした。第 2 回は 12 月 17 日よりメール会議形式で開催されました。審議事項は Karin の移行作業に関する提案で、補足説明の追加を行い、承認されました。IR 室によるフォルダ作成の管轄および各部局に対するデータ保存依頼はせず、各部局において Microsoft365 を使ってデータ集積を継続することになっています。

3 大学機関別認証評価の受審と IR 室

学校教育法は、すべての大学に教育・研究の質を保証し、自ら改善を図ることを目的として、認証評価機関による第三者評価を定期的に受けることを義務付けています。これが大学機関別認証評価（認証評価）です。福山大学は 2017 年度に公益財団法人 日本高等教育評価機構（JIHEE）で認証評価を受審し、適合と評価されました。認証評価の受審には、大学の自己点検評価書を作成し、その記載事項を裏付けるエビデンスの提出が求められます。これらの準備には多大な労力を要しました。そこで、本学の様々なデータ及び情報を収集して管理・分析等を行い、本学の運営とブランディングに係る意思決定や改善を支援することを業務とする IR 室が 2018 年 4 月に設置されました。IR 室が主導して諸委員会等の議事録、会議資料、活動記録などを体系的に Karin に収納されるようになりました。2018 年の教審答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」では、教育の質の保証等のための具体的方策の参考例として「教学 IR 体制の確立」をあげられ、第 3 サイクルを迎えた認証評価における評価基準では、「IR などを活用した十分な調査・データの収集と分析」という基準が設けられたことから、収集データに基づく分析も IR 室の大切な業務となりました。

前回の認証評価から 7 年が経過した 2024 年度、本学は前回に続いて JIHEE で認証評価を受審しました。2022 年 11 月に大学機関別認証評価対応委員会を組織し、自己点検評価書、エビデンス集（資料編）及びエビデンス集（データ編）の作成を開始しました。エビデンス集（資料編）には延 469 点の資料を掲載しました。これら膨大な資料収集には Karin に収納されたデータが活用されました。また、新しく設けられた評価基準である「IR などを活用した十分な調査・データの収集と分析」については、2023 年度及び 2024 年度に IR 室により分析された下記の 4 件の結果が記載されています。これらは IR ニュース第 12 号でもご紹介しています。

解析事例① 遠隔授業の教育効果に関する検証

解析事例② f-GPA 導入の影響に関する検証

解析事例③ アセスメント・ポリシーの適切性に関する検証

解析事例④ 入学試験の種別と入学後の学修成果に関する検証

今回の認証評価について、2025 年 3 月に JIHEE より「日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認定する。」と判定されました。日頃より、教育、研究、社会活動等に全力を尽くしてきた本学教職員と学生の努力の成果であると思います。自己点検評価活動においてエビデンスの収集と保管は今後も IR 室の重要な役割となるでしょう。残念ながら、Karin は 2025 年 3 月末をもって役割を終え、2025 年 4 月からは SharePoint にその役割が引き継がれます。また、高いレベルの分析手法を確立している IR 室には、これからも内部質保証に大きな役割を果たすことが期待されています。

全学自己点検評価委員会 委員長 山本 寛

4 令和 6(2024)年度の振り返り

今年度の IR 室の活動は、情報収集・分析を中心に、IR ニュースにて報告の通り、多岐にわたりました。入試広報室、教務課、教務委員会、大学教育センター等との連携によって、IR 室で実施された検証や分析が大学全体の運営および改善に活かされました。

IR ニュース<第 13 号>の発行を通じて、本年度の活動成果が広く共有され、IR 室について大学内外の理解が深まり、今後の活動に向けた有益なフィードバックが得られることを IR 室は期待しております。

IR ニュース<第 12 号>

2024 年 3 月 15 日発行

編集 IR 室

編集に携わったスタッフ：片桐 重和、田中 征史、田中 始男、天満 誠也、山本 寛、木平 孝高、
記谷 康之、松永 大輝

ご意見やご要望がございましたら、以下のメールアドレスまでお寄せください。

e-mail: irwg@fukuyama-u.ac.jp